

授業科目名 (サブタイトル(副題))	保育実習 I (施設)		
担当者	畠山 由佳子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①児童福祉施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解できる。 ②既習の強化全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養うことができる。 ③保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ぶことができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>社会福祉現場において経験のある教員が社会福祉について現場の事例を用いながら指導します。保育実習 I (施設)については、便覧の「保育士養成課程について」をよく読んでおいてください。</p> <p>1. 施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解します。 2. 既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養います。 3. 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体的について学びます。 実際に施設現場を経験する初めての実習です。保育士としての自覚を持ち、子どもたちと現場の職員の方々に敬意を払い実習に励んでください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>自分が行く予定の施設について事前に教科書や関連図書等で事前に必要な知識を付けておくこと。また、簡単な家事技術についても実習では必要なので身に付けておいてください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設についての理解を行う 2. 養護の一日の流れの理解と参加 3. 子どもの観察やかかわりを通して、参加 4. 援助計画を理解する 5. 生活や援助などの一部分を担当し、養護技術を習得する 6. 職員間の役割分担とチームワークについて理解をする 7. 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解する 8. 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ 9. 保育士としての職業倫理を理解する 10. 安全および疾病予防への配慮について理解する <p>[成績評価方法]</p> <p>事前・事後指導を含む事前の準備態度・提出物(20%)、実習日誌・実習施設からの評価(80%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>評価について個別にフィードバックを行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>yhatake@kwjc.kobe-wu.ac.jp(パソコンからのメールが受信できるように設定を確認してからメール送付して下さい)</p>			

授業科目名 (副題)	保育実習 I (施設)
担当者	畠山 由佳子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>【 幼教1-1 】現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。 成績評価方法: 事前・事後指導を含む事前の準備態度・提出物、実習日誌・実習施設からの評価</p> <p>【 幼教2-2 】幼児教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考や創造的な活動ができる。 成績評価方法: 実習日誌・実習施設からの評価</p> <p>【 幼教2-3 】保育者として、また社会の一員としての自覚に基づいた創造的能力を備えている。 成績評価方法: 実習日誌・実習施設からの評価</p> <p>【 幼教3-1 】幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。 成績評価方法: 事前・事後指導を含む事前の準備態度・提出物</p> <p>【 幼教3-2 】幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。 成績評価方法: 実習日誌・実習施設からの評価</p> <p>[テキスト (ISBN)] なし</p> <p>[参考文献 (ISBN)]</p>	